

R6581

R6581、R6581Dは、アドバンテストの商標です。

品番	GP・IBボード	価 格	動作環境
W32・R6581・R	ラトックシステム社	50,000 円 (消費税は含まれておりません。)	Win98SE/Me Win2000/XP Excel2000 Excel2002/2003
W32・R6581・C	コンテック社		
W32・R6581・N	NI社		
■使用できる機種 R6581,R6581D			

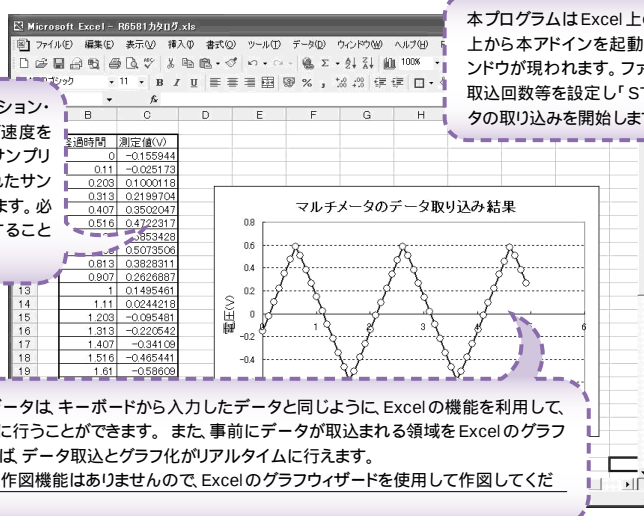
機 能

- データロガーとしての活用
指定された時間間隔で指定された個数のデータをリアルタイムにExcelシートに取込みます。
最大 200,000 回までのデータが連続して取り込めます。
- 製品検査への活用
被測定物を取り換えながら、個々のデータをExcelシートに取込みます。
- 内部メモリに保存された測定データをExcelシートに取り出すことができます。

注 1) スキャナカードには対応しておりません。
注 2) IC カードからのデータ取込には対応しておりません。

概 要

スタートすると、ファンクション・測定レンジ・サンプリング速度を設定した後、指定されたサンプリング時間間隔で、指定されたサンプル数のデータを取込みます。必要なら日付時刻も付加することもできます。



本プログラムはExcel上のアドインとして動作します。Excel上から本アドインを起動すると、Excelシート上に、このウィンドウが現れます。ファンクション、測定レンジ、時間間隔、取込回数等を設定し「START」ボタンをクリックするとデータの取り込みを開始します。



測定中は、データ表示を邪魔しないように、ウィンドウは下図のように縮小表示となります。



操作説明

測定器からデータの取込を開始します。「PAUSE」を先に押してから「START」を押すとスポット測定モードになります。

測定中は「赤色」ポーズ中は「青色」
停止中は「灰色」となります。

測定ファンクションを設定します。

測定レンジをAUTO/MANUALで切換ええます。AUTOのチェックを外すとレンジ入力用テキストボックスが現れますからレンジをキーボードから入力します。厳密な値を入力する必要はありません。入力された値に一番近い1つ上のレンジに設定されます。

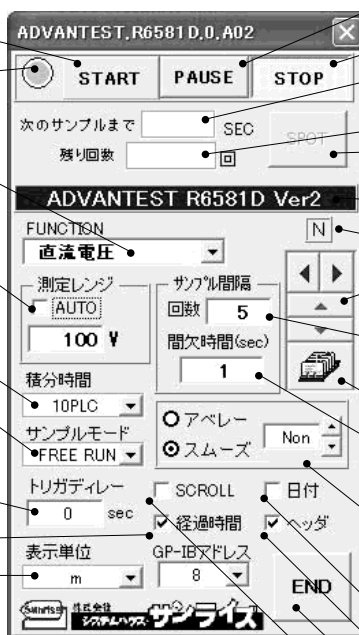
積分時間を設定します。

サンプリングモードを設定します。「FREE RUN」は、測定中もFREE RUN状態を保持します。「パソコン」は、測定時間毎にパソコンが測定器にトリガを送信します。測定器はHOLD状態になります。「外部」は測定器リアーのトリガ入力端子に同期してサンプリングを行います。

測定のトリガディレイ時間を入力します。
通常は、空欄または「0」を入力します。

測定開始後の経過時間を付加します。

測定値をExcelへ入力する時の単位を設定します。「実測値」は、測定ファンクションにより「V」「A」または「Ω」の単位で入力します。



データの取込を一時中止します。もう一度クリックすると、取込を再開します。

データの取込を停止します。

測定中、間欠時間が2秒以上の時、サンプリングまでの残り時間をカウントダウンします。

測定中、取込の残り回数を表示します。

「PAUSE」中、有効となり、クリックする毎にデータを取り込みます。スポットモードでは、データのサンプリングに使用します。

この部分をダブルクリックすると、測定器の型式をR6581とR6581Dで切り換えることができます。

Excelシート上のカーソルを左右・上下に移動します。Excelシート上のカーソルを移動しデータ取込開始位置を決定します。「START」ボタンをクリックするとカーソル位置から下方向へデータを取込みます。

データを取込む回数を指定します。但し「STOP」ボタンでいつでも中断できます。また、何も入力されていないときは、200,000回と解釈されます。入力できる最大回数は、200,000回です。

データを入力するExcelシートを切換ええます。

データを取込む時間間隔(秒)を入力します。ここで入力した時間と実際の時間間隔では若干の差異が発生します。何も入力がない場合やゼロが入力された場合は、最速でデータを取り込みます。入力できる最大時間は、3600秒です。

アベレージ・スムージングの選択をします。また、その回数を設定します。回数の入力を「Non」に設定するとアベレージ・スムージングのどちらもOFFになります。注)サンプリングモードが「FREE RUN」の場合だけ、アベレージの選択が可能です。

データに日付時刻を付加します。

最初のデータ取込時、測定項目名等のヘッダを付加します。

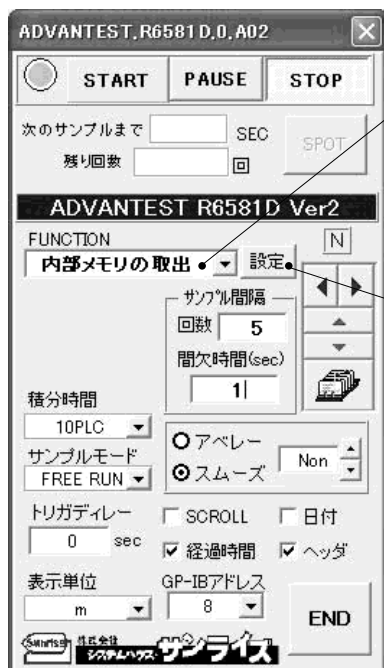
アドインを終了します。

データの入力と共にシートをスクロールします。

スポット測定モードの使用方法

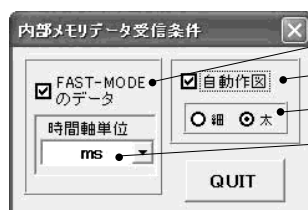
「PAUSE」ボタンを先にクリックして、その後「START」ボタンをクリックすると「スポット測定モード」になります。マルチメータの設定が行われた後、「SPOT」ボタンのクリック待ちとなります。「SPOT」ボタンをクリックする毎にデータがExcelシートに取込まれます。この時「SPOT」ボタンをクリックする代わりに「スペース」キーを押しても同様の結果となります。この「スポット測定モード」では「経過時間」の欄には1,2,3...と「連続番号」が入力されます。例えば、被測定物を取り換えながら、個々の被測定物の測定を行う場合に便利です。「スポット測定モード」を終了するためには「STOP」ボタンをクリックします。

内部メモリに保存された測定データの取り出し方法



「FUNCTION」の選択で「内部メモリの取出」を選択します。
その後「START」ボタンをクリックすると、測定器の内部メモリに保存された全ての測定データを Excel シートに取り出します。
測定データの内部メモリへの保存は、測定器に付属するマニュアルを参照し、ユーザ側で事前に行っておいてください。
測定データを Excel シート取り出すために要する時間は、おおよそ、下記のとおりです。
測定器内部の測定データ数が 10,000 個の場合、約 15 秒です。
測定器からのデータ受信時間 = 6 秒、受信データを Excel へ入力する時間 = 9 秒
但し、Pentium4(1.7GHz)のパソコンを使用した場合。

内部メモリへ「FAST MODE」でデータを取り込んだ場合。



チェックを付けます。
データの自動作図を行う場合にチェックします。
データグラフの作図線の太さを指定します。
データに併記される時間データの単位を指定します。

内部メモリへ「FAST MODE」を使用しないでデータを取り込んだ場合。



チェックを外します。
データに併記される横軸データの1データ毎の増分を入力します。

内部メモリの測定データを Excel に取り込んだ例

